大阪地下鉄の「壮大な地下空間」

写真は大阪市役所に行くときに利用する、地下鉄御堂筋線の淀屋橋駅ホーム。壮大なアーチ型の構造であり、ゆったりした感じになる。写真では、シャンデリアがうまく撮れていないが、心斎橋や天王寺など、それぞれ特徴的である。関一市長時代に造られた地下鉄御堂筋線ホームから、大阪の歴史を味わえる。

先に紹介した『大阪地下鉄建設 70 年のあゆみ』にホームについて書かれているので紹介する。

昭和 8 年 5 月 20 日。大阪での地下鉄は梅田～心斎橋間の開業で始まりました。いくつかある編纂史からひもといてみると、その中に共通して出てくるのは「ホームに柱の無い壮大なアーチ構造、美しいタイル装飾、輝くシャンデリア、さらに物珍しいエスカレータ」などの表現です。そして、「驚嘆、浪速っ子の度肝を抜く、…」と続くのです。それらは 70 年たった今も現存する構造物や当時の写真からも息づかいがありありと伝わってきます。

この初めての地下鉄建設の調査を始めたのは大正 9 年ですが、建設資金の調達等に時間がかかったため、やっと 9 年後の昭和 5 年に工事を開始したのです。しかし、当時の地下鉄設計者は、初めて手がける「地下鉄」という分野を前にかなり意気高揚していたようです。昭和 2 年に開業した東京の地下鉄よりもすばらしいものを造ろうと、設計の幹部は毎年交代で海外視察に出かけ、最新の知識と情報を集めていたようです。

乗降場の大きいアーチ天井を中心として、停留場全体で風格ある構造美と意匠を生み出したのは、この視察等の見識による影響があったと思われます。また、停留場の装飾や照明器具には、大正末期から昭和初期にかけて日本でも花開いたアールデコのデザイン動向が感じとれます。このような立派な停留場は、当時第 7 代市長であった關市長の「世界に恥じないものを造れ。」というバックアップがあったからこそ実現できたのです。

大阪市営交通の長い歴史の中にあって、この最初の地下鉄の「壮大な空間」は画期的なものとして後々まで言い伝えられることでしょう。

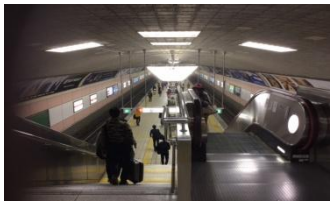

写真 2 枚目から順に、開業当時の淀屋橋・心斎橋停留場、現在の心斎橋駅。心斎橋駅ホームは階段から遠くまで見通せ、長いホームから昔の面影を楽しむこともできる。

（2020 年 6 月 4 日）